玉名の遺跡
シリーズ⑬

玉名の舟形石棺（ふながたせっかん）

【お問い合わせ】
玉名市教育委員会
文化課文化財係
TEL:0968-75-1136
bunka@city.tamana.lg.jp

①山下古墳（玉名市立歴史博物館こころピア展示）

～玉名で製作し、瀬戸内海から大阪まで運搬～

古墳時代前期から中期を中心とした、九州の剖抜式石棺の端緒は讃岐（さぬき）地域（香川県）にあると考えられています。これらに系譜する舟形石棺は、菊池川流域に約 50 基分布しており、下流域には現在 34 基が確認されています。また、この玉名で製作された石棺は、5 世紀中頃になると大牟田・みやま・佐賀の他、瀬戸内海沿岸、大阪の有力者古墳の棺として舟で運ばれています。

※写真の番号はおおよそですが古い順番を示しています。

② 後田古墳（石貫）

③ 経塚古墳（天水町）県史跡

※天水体育館の階段下に復元展示

④ 大塚古墳（天水町）県史跡

⑤ 宮の後古墳（溝上）

⑥ 真福寺東古墳（溝上）

⑦ 松林寺山古墳(向津留)

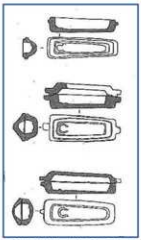
⑧ 伝左山古墳（繁根木）市史跡

⑨ 前田古墳（溝上）

⑩ 小路古墳（元玉名）市有形文化財

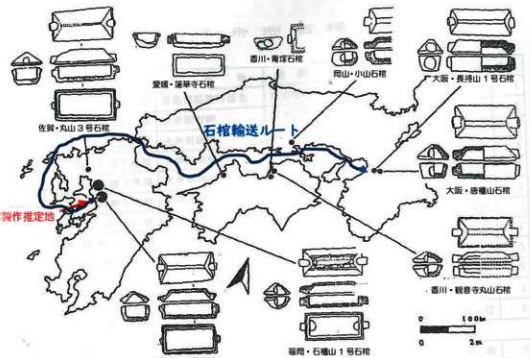
※「見学可」以外の古墳を見学される場合は、個人の敷地内や荒れた山中にありますので注意が必要です。

■舟形石棺の分布　～製作地とその運搬ルートとは？～



玉名市内の舟形石棺分布（集中部のみ）

これほど多くの石棺が玉名で作られたのは、材料となる良質な凝灰岩が豊富にあったことに加えて、瀬戸内海沿岸や近畿地方の有力者と結びつきがあったと考えられるぞ。今後は石切場の特定などが課題じゃ。



菊池川下流域で製作された舟形石棺の分布（高木恭二「九州における舟形石棺」1992 より）

◀高木恭二氏は、玉名の溝上・青木付近を石棺製作地の一つとして推定しており、宇土の馬門石（ピンク石）と同様に瀬戸内海を経由して大阪方面まで、舟で運ばれたと考えられています。

これは平成 17 年に実施された「大王のひつぎ航海実験」でも実証されています。